

岡山大学特別専攻科 開講授業科目概要

授 業 科 目 名	担 当	概 要
特別支援教育論	吉利 宗久	<p>特別支援教育一般について、その理論並びに法制度、指導原則などの理解を図り、特別支援教育に関する基礎理論を教授する。</p> <p>1. 特別支援教育の歴史、 2. 特別支援学校の制度とその現状①（特別支援学校の目的等）、 3. 特別支援学校の制度とその現状②（特別支援学校への就等）、 4. 通常の学校における特別支援教育の制度と現状①（特別支援学級）、 5. 通常学校における特別支援教育の制度と現状②（通級による指導）、 6. 視覚障害者教育の実態と基礎、 7. 聴覚障害者教育の実態と基礎、 8. 知的障害者教育の実態と基礎、 9. 肢体不自由者教育の実態と基礎、 10. 病弱者教育の実態と基礎、 11. 言語障害者教育の実態と基礎、 12. 自閉症・情緒障害者教育の実態と基礎、 13. 発達障害者教育の実態と基礎、 14. 特別支援教育をめぐる新たな動向（インクルーシブ教育を中心に）、 15. 特別支援教育をめぐる新たな動向（個別の教育支援計画を中心に）</p>
障害児教育史	吉利 宗久	<p>障害のある子どもに対する教育の成立過程について、欧米における実践の登場と展開を整理し、それが我が国に与えた影響や受容過程について論ずる。</p> <p>1. 障害児教育前史、 2. 聴覚障害者教育史（世界）、 3. 聴覚障害者教育史（日本）、 4. 視覚障害者教育史（世界）、 5. 視覚障害者教育史（日本）、 6. 肢体不自由者教育史（世界）、 7. 肢体不自由者教育史（日本）、 8. 知的障害者教育史（世界）、 9. 知的障害者教育史（日本）、 10. 病弱者教育史（世界）、 11. 病弱者教育史（日本）、 12. 言語障害者教育史、 13. 自閉症・情緒障害者教育史、 14. ハンセン病の歴史、 15. 障害児教育の新しいかたちー特別支援教育とインクルージョン教育の動向</p>
特別支援教育研究Ⅰ	吉利 宗久	<p>理論研究に必要な基礎知識とその手法を学習する。例えば、障害のある子どもの歴史、法制度、外国動向等の教育問題に関する文献資料を自らの問題意識に基づいて収集・整理し、報告と討論を行う。（演習）</p>
特別支援教育研究Ⅱ	吉利 宗久	<p>理論研究に必要な基礎知識とその手法を学習する。例えば、障害のある子どもをとりまく教育問題の動向とその位置づけを、文献資料の検討を通して理解する。（演習）</p>
知的障害者心理学	丹治 敬之	<p>知的障害児の認知・言語発達、及びそれらをアセスメントするための方法について概説する。また、学校教育の支援事例を交えながら、アセスメントに基づく支援の考え方についても議論する。</p> <p>1. 知的障害の定義と分類、 2. 知的障害に対する発達検査および</p>

		<p>知能検査, 3. 知的障害の認知機能, 4. 知的障害における認知発達の支援, 5. 知的障害の言語発達, 6. 知的障害における言語発達の支援, 7. 知的障害のコミュニケーション発達, 8. 知的障害におけるコミュニケーションの支援, 9. 中間試験, 10. 行動随伴性に基づく知的障害の行動理解, 11. 行動面のアセスメント(機能的アセスメント), 12. 問題行動の機能に注目した支援, 13. 行動の先行事象(動機づけ操作・弁別刺激)に注目した支援, 14. 行動の結果事象(好子・嫌子)に注目した支援, 15. まとめ</p>
知的障害者生理・病理学	大守 伊織	<p>中枢神経系の構造と機能およびその発達過程の概要を紹介する。さらに知的障害の発生機序, 疫学, 病理, 臨床症状, 評価法および予後の概要を紹介し, 支援の方法についても概説する。</p> <p>1. 人の発生, 神経系の発生, 2. 脳の構造と機能, 3. 神経組織学, 4. 神経細胞の興奮・伝導・伝達, 5. 神経伝達物質, 6. 神経解剖・組織・生理学のまとめ学習, 7. 記憶のしくみ (1) てんかん外科手術からわかったこと, 8. 記憶のしくみ (2) 学習の基本形, 9. 記憶のしくみ (3) シナプスの機能, 10. 記憶・学習の生理学まとめ学習, 11. 神経発達障害, 12. 発話と音声言語理解の脳内機構とその障害, 13. 痙攣性疾患, 14. 注意欠陥多動障害, ストレス障害等, 15. 小児神経疾患病理のまとめ学習</p>
肢体不自由者心理・生理・病理学	佐藤 暁	<p>肢体不自由者(知的障害の重複を含む)の心理・生理・病理に関する基礎的な知識を伝える。</p> <p>1. イントロ・授業紹介, 2. 運動発達の概要 臥位の発達, 3. 運動発達の概要 座位の発達, 4. 運動発達の概要 立位の発達, 5. 運動発達の概要 歩行の発達, 6. 運動発達の概要運動発達のつまずき, 7. 運動障害各論 仰臥位, 8. 運動障害各論 座位, 9. 運動障害各論 床上運動, 10. 運動障害各論 二次障害, 11. 運動障害の各論 その他の運動障害, 12. 運動障害に合併する問題, 13. 運動障害と知的障害, 14. 運動障害と学習障害等, 15. 全体のまとめ</p>
病弱者心理・生理・病理学	大守 伊織	<p>病弱・虚弱児の実態把握に必要な基礎知識や予防・早期発見および療育について概説する。また教育の際の配慮事項や実態把握法についても概説する。</p> <p>1. 中枢神経系の構造, 2. 中枢神経系の生理, 3. 疾病発症のメカニズムと予防, 4. 疾病の早期発見・スクリーニング, 5. 病弱児の病理(呼吸器疾患), 6. 病弱児の病理(心疾患), 7. 病弱児の病理(腫瘍性疾患), 8. 病弱児の病理(皮膚疾患), 9. 病弱児の病理(内分泌疾患), 10. 肢体不自由児の病理, 11.</p>

		知的障害児の病理, 12. 重度重複障害の病理, 13. 病弱児の心理, 14. 病弱児のメンタルヘルス, 15. QOL向上をめざした支援
特別支援心理研究 I	丹治 敬之	発達支援研究, 実証研究に必要な基礎知識とその手法を学習する。例えば, 知的障害児・発達障害児への支援を進めるために必要な研究法について概説する。主に, 応用行動分析的アプローチによるデータの収集や分析方法について議論する。(演習)
特別支援心理研究 II	丹治 敬之	発達支援研究, 実証研究に必要な基礎知識とその手法を学習する。例えば, 知的障害児・発達障害児教育におけるトピックをとりあげ, いくつかの研究論文や文献を講読することを通して, それぞれの意義と課題について議論する。(演習)
特別支援病理研究 I	大守 伊織	実験, 調査研究に必要な基礎知識とその手法を学習する。例えば, 知的障害児の実態把握に必要な病理的な基礎知識について検討を行う。特に, 知的障害の発生机序, 疫学, 病理, 臨床症状, 評価法および予後に注目する。(演習)
特別支援病理研究 I	大守 伊織	実験, 調査研究に必要な基礎知識とその手法を学習する。例えば, 知的障害の発生机序, 疫学, 臨床症状など, 実態把握に必要な基礎知識について概説し, 支援法や教育の際の配慮事項についても概説する。さらに肢体不自由児および病弱児の病理的背景についても取り上げる。(演習)
知的障害者教育課程・指導法	大竹 喜久	知的障害児教育(知的障害を伴う自閉症児・肢体不自由児を含む)における教育課程・指導法について論ずる。 1. イントロダクション, 2. 知的障害児を対象とする場合の教育課程の特徴, 3. 知的障害児教育における「領域・教科を合わせた指導」のあり方, 4. 知的障害児教育における「領域・教科を合わせた指導」の授業実践, 5. 知的障害児教育における「教科別の指導」のあり方, 6. 知的障害児教育における「教科別の指導」の授業実践, 7. 知的障害児教育における自立活動のあり方, 8. 知的障害児教育における自立活動の授業実践, 9. 構造化教育実践のあり方, 10. 構造化教育を用いた授業実践, 11. 知的障害児に対するソーシャルスキルの指導のあり方, 12. 知的障害児に対するソーシャルスキルの授業実践, 13. 知的障害児に対するコミュニケーション指導, 14. 知的障害児に対する就労支援, 15. 知的障害児の個別の指導計画
肢体不自由者教育課程・指導法	佐藤 暁	肢体不自由(知的障害の重複を含む)のある幼児・児童・生徒への教育課程と指導法について解説する。 1. イントロ・授業案内, 2. 肢体不自由者のある人の理解・哲学的な観点を取り入れること, 3. 生活世界ということ, 4.

		還元という考え方, 5. 障害を生きるということ, 6. 肢体不自由のある人の教育課程と指導法の概要, 7. 教育課程の考え方, 8. 自立活動の歴史, 9. 実活動の目標, 10. 自立活動の内容・区分, 11. 動作の改善の技法の基礎, 12. 動作改善の技法・・座位保持まで, 13. 動作改善の技法・・立位まで, 14. 動作改善の技法・・歩行まで, 15. 肢体不自由に合併する諸問題にかかわる指導法
病弱者教育課程・指導法	平賀 健太郎	<p>病弱者(一部, 肢体不自由についても扱う)の教育課程と指導法について説明し, その中で生じやすい教育的課題および, その支援方法について説明する。</p> <p>1. オリエンテーション 病弱教育の定義, 2. 病弱教育の対象となる疾患 病弱教育の場, 3. 病弱教育における教育課程の多様性 病弱者に対する自立活動の実際, 4. 病院にある学校での指導の実際 病院内での教育における教科指導, 5. 病弱者が有する共通の心理的課題 疾患固有の教育的ニーズと指導法(小児がん), 6. 疾患固有の教育的ニーズと指導法(I型糖尿病) 疾患固有の教育的ニーズと指導法(アレルギー性疾患), 7. 疾患固有の教育的ニーズと指導法(心臓病) 疾患固有の教育的ニーズと指導法(筋ジストロフィー), 8. 疾患固有の教育的ニーズと指導法(てんかん) 疾患固有の教育的ニーズと指導法(呼吸器疾患), 9. 疾患固有の教育的ニーズと指導法(腎臓病) 病弱者への復学支援(病院にある学校の果たす役割), 10. 病弱者への復学支援(前籍校の果たす役割) 病弱者への復学支援(関係者間の連携の必要性), 11. 義務教育段階以外における病弱教育の課題 病弱教育における ICT 活用の現状と課題, 12. 病弱者の自己管理能力の育成と課題 病弱者の心理的ストレスと軽減方法, 13. 病弱児のクラスメイトの病気の理解 病弱教育におけるインクルーシブ教育, 14. 病弱者の家族の心理とその支援 緩和ケアを受けている子どもにおける病弱教育, 15. 病気の子どもにとって学校教育が果たす役割</p>
知的障害者教育方法論	大竹 喜久	<p>知的障害児(知的障害を伴う自閉症児・肢体不自由児・病弱児を含む)教育における指導法について, 行動を分析する立場から論ずる。</p> <p>1. 知的障害児の「学習」をどうとらえるか, 2. 快がもたらされる/不快が除去される環境をつくる, 3. 行動に先行する事象を変えることで「もたらされる快」「除去される不快」を大きくする, 5. 価値ある結果がもたらされない/快な結果がもたらされる環境をつくる, 6. 「ある条件の時のみ, その行動が生じる」ことが成立している時とは, 7. 「ある条件の時のみ, その行動が生じる」こと</p>

		を成立させるための技法, 8.「様々な場面で必要な行動を生じる」ことを成立させるための技法, 9. 望ましい行動を確実に生じさせるための人的支援と物的支援, 10. 今ある行動レパトリーを漸次的に変化させて目標行動に到達させるための指導技法, 11. 複数の単位行動から構成される課題を遂行できるようにするための指導技法, 12. いつでもどこでも, 即時に「価値ある結果事象」を行動に随伴させるための技法, 13. 自己管理方略, 14. 望ましい行動を増やすことにより「問題」行動を減らす, 15. 「問題」行動によって得られる「価値ある結果事象」の価値を下げる機能を持つ環境をあらかじめ設定することで「問題」行動を減らす
特別支援行動支援論	大竹 喜久	<p>自傷行動や他害, 破壊行動等の問題行動を示す知的障害児(知的障害を伴う自閉症児・肢体不自由児・病弱児を含む)に対する積極的行動支援の理論と実践について, 講義, 演習, 事例検討を通して学ぶ。</p> <p>1. 積極的行動支援とは, 2. 機能を基盤としたアプローチ, 3. 機能アセスメント(インタビュー・直接観察法), 4. 機能分析, 5. 機能等価コミュニケーション指導, 6. 課題提示と問題行動, 7. 選択機会と問題行動, 8. 非随伴性強化(基礎的研究), 9. 非随伴性強化(応用的研究), 10. 生理・生物学的要因と問題行動, 11. ラポート形成と問題行動, 12. 包括的支援と文脈との適合性の問題, 13. 事例検討会1, 14. 事例検討会2, 15. 事例検討会3</p>
特別支援臨床研究Ⅰ	佐藤 暁	理論研究, 保育・教育・福祉実践研究, 発達支援研究に必要な基礎知識とその手法について学習する。例えば, 肢体不自由児(知的障害の重複を含む)にかかわる今後の展望について討論する。(演習)
特別支援臨床研究Ⅱ	佐藤 暁	理論研究, 保育・教育・福祉実践研究, 発達支援研究に必要な基礎知識とその手法について学習する。例えば, 肢体不自由, 知的障害, 重複障害, LD等の障害のある幼児・児童・生徒の教育臨床を支える基礎理論について解説する。(演習)
特別支援実践研究Ⅰ	大竹 喜久	理論研究, 保育・教育・福祉実践研究, 発達支援研究に必要な基礎知識とその手法について学習する。例えば, 特別支援教育実践の中で活用できる動機づけのための教材を開発し, 実施し, その効果を確認するための手続きについて教授する。(演習)
特別支援実践研究Ⅱ	大竹 喜久	理論研究, 保育・教育・福祉実践研究, 発達支援研究に必要な基礎知識とその手法について学習する。例えば, 特別支援教育実践の中で生じているできごとを切り出し, そこから重要な概念を導き出す方法について教授する。(演習)

特別支援教職実践研究Ⅰ	仲矢 明孝	保育・教育・福祉実践研究に必要な基礎知識とその手法について学習する。例えば、特別支援学校（知的障害）における授業を取り上げ、授業の見方、分析方法等について解説するとともに、実際に授業分析を行う。また、いくつかの研究論文を取り上げ、読み合わせをすることにより、研究方法の基本的事項を学ぶ。（演習）
特別支援教職実践研究Ⅱ	仲矢 明孝	保育・教育・福祉実践研究に必要な基礎知識とその手法について学習する。例えば、実際の教育活動に継続的に参加し、そこで得られたデータを整理し、分析することにより、指導の効果について検討するとともに、研究論文を作成する。（演習）
視覚障害者教育論	河田 正興	<p>特別支援教育のうち、視覚障害教育領域にスポットを当てて、基礎的理論を展開する。この基礎的理論とは、視覚認知、視覚生理、視覚障害の病理及び心理学的アプローチの概要と、視覚障害児・者に対する教育の理念・教育課程及び指導法についての検討である。併せて、特別支援学校をはじめ小中学校等に在籍する視覚障害児・者に対する指導上の配慮事項について検討する。</p> <p>1. 視覚の生理, 2. 視覚障害の病理, 3. 視覚障害者教育の理念と教育課程の概要, 4. 視覚障害者のコミュニケーションと点字の指導法, 5. 視覚障害者の環境認知と移動 白杖歩行の指導法, 6. 視覚障害者の心理・視覚認知とロービジョンケア, 7. 視覚障害児の初期学習の基礎理論と重複障害, 8. 視覚障害者福祉・教育の歴史と現状, 今後の課題</p>
聴覚障害者教育論	福田 章一郎	<p>聴覚の基本的な生理、解剖を学び、難聴の発見とその検査法を視聴覚教材により具体的に提示する。聴覚障害の特徴とそれに必要な補聴手段、コミュニケーション手段、療育手段を紹介する。また、聴覚障害の理解のため他の言語障害についても簡単に述べる。</p> <p>1. 聴覚の聴覚検査, 2. 聴覚障害児と補聴, 3. 聴覚障害児の心理, 4. 聴覚障害児の聴覚学習, 5. 聴覚障害児の学習, 6. 聴覚障害児の教育課程, 7. 聴覚障害児の指導法, 8. 他障害の紹介とまとめ</p>
発達障害者心理学	丹治 敬之	<p>学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラムの特性、及び認知特性、学習面、行動面をアセスメントするための方法について概説する。また、通常学級における支援事例の検討についても議論する。</p> <p>1. 特別支援教育における発達障害の理解と対応, 2. 発達障害の定義と分類, 3. 学習障害 (LD) の特性, 4. LD への支援, 5. 注意欠如多動性障害 (ADHD/ADD) の特性, 6. ADHD/ADD への支援, 7. 自閉症スペクトラム障害 (ASD) の特性, 8. ASD への支援, 9. これまでのまとめ, 10. 認知特性のアセスメント① (WISC),</p>

		11. 認知特性のアセスメント②(K-ABC), 12. 認知特性を活かした支援, 13. 行動面のアセスメント(機能的アセスメント), 14. 行動特性に配慮した支援, 15. まとめ
重度・重複障害者教育論	江田 裕介	<p>重度・重複障害児教育の原理や方法について、コミュニケーション支援の観点を中心にして講ずる。コミュニケーションに生じる問題を、言語発達の遅れや心身の活動制限など子どもの側にある要因と、対話の場面や方法など環境の側にある要因の双方から検証する。また、障害児のコミュニケーションを支援する具体的な技術と指導法について学ぶ。</p> <p>1. 重度・重複障害の原因疾患, 2. 重度・重複障害児教育の歴史と現状(日本と海外), 3. 重度・重複障害児の教育的ニーズ, 4. 重度重複障害児におけるコミュニケーション障害, 5. さまざまなコミュニケーション支援の技術, 6. 子どもの遊びとおもちゃの支援, 7. 摂食機能の発達と指導, 8. 生理的指標の利用</p>
特別支援教育実習基礎研究	大竹 喜久	<p>特別支援学校(視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・知的障害), 特別支援学級(知的障害), 通級による指導における特別支援教育の実際について講義する。また、本学部附属特別支援学校教員による主免教育実習のための実践的な授業設計や授業づくりに関する演習を行う。</p> <p>1. 講義の概要, 2. 特別支援学校(知的障害)における教育課程, 3. 通級による指導の特徴と特別支援学校(知的障害)における教育の実際, 4. 授業設計演習Ⅰ(学習指導案の書き方:概要), 5. 授業設計演習Ⅱ(書き方の実際-小学部), 6. 授業設計演習Ⅲ(書き方の実際-中・高等部), 7. 通級による指導(情緒)の実際, 8. 通級による指導(言語)の実際, 9. 岡山県の特別支援教育の実際, 10. 特別支援学校(視覚障害)における教育の実際, 11. 特別支援学校(肢体不自由)における教育の実際, 12. 特別支援学校(聴覚障害)における教育の実際, 13. 特別支援学校における子どもの理解と教育の特徴, 14. 特別支援学級における教育の実際, 15. 特別支援教育実習上の留意点</p>
特別支援教育実習	佐藤 暁	<p>個々の児童生徒の実態を的確に把握し、実態に即した指導計画を立案すると共に、実地授業を通してよりよい授業のあり方を学ぶ。さらに、これらを基礎として学習指導や日常生活の指導など、教育活動全般にわたって責任を持つ教生経営を実施する。</p>